

令和7年度 佐賀大学教育学部 附属小学校教育研究発表会

社会科
当日資料



本田 隆
井上 太晶



佐賀大学教育学部
附属小学校

2025 年 7 月 24 日 (木)

公開授業Ⅳ：9：20～10：05 4年1組教室

公開授業Ⅴ：10：20～11：05 5年2組教室

授業研究会③：11：20～12：30 5年2組教室

本時までの流れ

次	時	主な学習活動（○）、児童の様子等（※）	教師の働きかけ（○）、児童の言葉（ ）
つかむ	1	○3種類の資料（「日本の米の生産量（2024）」「日本の米の消費量（2024）」「日本米の食味総合評価」）を読み取ったり、日本米と外国米を食べ比べたりし、日本の米や、米作りについて疑問に思ったことを出し合う。 ※生産量のグラフ及び消費量のグラフから、「どこで、どうやって米が作られているのか」という疑問をもっていた。 ※日本米の食味総合評価のグラフ及び食べ比べの経験から、「なぜ日本米は品質が高いのか」という疑問をもっていた。 ○日本の米や、米作りについて調べたいことを出し合い、学習問題を設定する。 【学習問題】 日本の食生活を支える美味しいお米は、どこでどのようにして作られ、私たちの元に届けているのだろう。 ※児童の疑問から学習問題を設定することで、学習問題を追究する意欲が高まった（図1）。 図1 児童の疑問と学習問題 ※提示する資料を精選することで、単元を通して捉えるべき社会認識を追究することにつながる学習問題を設定することができた。	○米や米作りへの関心を高めるために、「日本の米の生産量（2024）」と「日本の米の消費量（2024）」を資料として提示した。 ・米は日本の主食だから、たくさん作られているんだな。でも、どこで？どうやって？ ○日本米の品質の高さに気付くことができるようにするため、外国米との食べ比べを行った。また、「日本米の食味総合評価」を資料として提示し、データとしても品質が高いことに気付くことができるようにした。 ・日本の米は、甘くてもちもちしている！ ・香りもいいね。
	2	○前時で設定した学習問題を基に、何を、どのように調べていくのか、学習計画を立てる。 ※学習問題を解決するために、どんなことを調べるべきか（調べる社会的事象）、どうやって調べるべきか（調べ方）を自分たちで考え、まとめることができていた。 ※イメージマップを基に学習計画を立てることで、単元の学習の見通しをもつことができた。	○児童自身が見通しをもてるようにするため、イメージマップを基に学習計画を立てた。 ○学習の見通しをより明確にするために、何をどうやって調べるべきか、全体で共有した。 【児童の振り返り】 ・どうやって米を作っているのか、実際に働いている人に聞きたい。 ・なぜ東北地方で多く米が取れるのか、本やタブレットで調べたい。 ・J Aは何をしているのか調べたい。

図1 児童の疑問と学習問題

調 べ る	3	○米作りがさかんな地域である庄内平野について、なぜ庄内平野では米作りがさかんなのかその理由を「自然条件」に着目して調べる。 ※教師が提示した資料を基に、庄内平野で米作りがさかんな理由を意欲的に調べていた。また、調べたことを、「地形」と「気候」に分類し、整理することができた。 ※「庄内平野は、」という書き出しに続けて、自分の言葉で本時のまとめを書くことができていた。	○庄内平野で米作りがさかんな理由を「自然条件」に着目して調べることができるようにするため、「庄内平野の鳥瞰図」、「庄内平野の土地利用の様子」、「庄内平野の気候」を資料として提示した。 【児童の振り返り】 ・庄内平野は、平野で近くに大きな川が流れているという地形の特色があるから、米作りがさかんだということが分かった。 ・夏の日照時間が長かったり、昼夜の気温差が大きかったりするという気候の特色があるから、米作りがさかんだと分かった。
	4	○米作りの様子について、良い稲を育てるための取組を、人々の「工夫や努力」に着目して調べる。 ※米作りの流れについて、作業工程を予想し、並び替えることで稲を育てるための取組や農家の方の努力に気付くことができていた。 ※農家の方のインタビュー動画や農事暦から、良い稲を育てるための工夫に気付くことができていた。しかし、農家の方の話を直接聞くことはできず、児童の関心を十分に高めることはできなかった。	○米農家の方の工夫や努力に気付くことができるようにするため、農事暦と作業工程を資料として提示した。 ○現在と昔の作業工程の違いについて予想する時間を設けたことで、機械化や効率ということにも関心を向けることができていた。 【児童の振り返り】 ・米作りは、田植えと稲刈りのイメージだったけど、土や水の管理という大変な作業もしているから、良い稲が育つと分かった。 ・機械を使って作業をしている人も多いので、手作業と機械でどんな違いがあるのかも調べたい。
	5	○米作りの様子について、短時間で大量に米を生産、収穫するための取組を、「効率」に着目して調べる。 ※米の生産量の推移と作業時間の推移の資料を関連付けて、機械化によって効率よく米を生産、収穫できるようになったと予想することができていた。 ※教師が提示した資料から、効率よく米を生産、収穫できるようになった理由を、「機械化」と「圃場整備」に整理し、まとめることができた。	○米作りにおける工夫を「効率」に着目して調べることができるようにするため、「米の生産量の推移」と「作業時間の推移」を資料として提示し、「なぜ生産量は増加しているのに、作業時間が減少しているのか」について問いかけた。 【児童の振り返り】 ・農家の人達は、機械を使って効率よくお米を作っていることが分かった。 ・圃場整備という言葉は初めて聞いたけど、効率を上げるために大切だと思った。 ・機械を使うと効率が上がるけど、その分、機械の費用がかかるのではと思う。
	6	○米作りにおける工夫を、「品質」に着目して調べる。 ※教師が提示した資料や、インターネットで入手した情報を基に、品質を高める米作りの工夫について、「品種改良」や「有機栽培」等の事例によって整理し、まとめることができていた。 ※効果や費用、時間という視点で、どちらがより効果的なのか話題に上がった。	○日本には多くの品種の米があることに気付いたり、なぜ多くの品種が開発されているのか疑問をもったりすることができるよう、米袋を提示した。 ○品種改良の事例を紹介し、品種改良の意義を捉えることができるようにした。 【児童の振り返り】 ・品種改良をすることで、美味しくなったり生産しやすくなったりすることが分かった。 ・品種改良には、長い時間とたくさんの費用がかかることに驚いた。

	7	○J Aさんが職員の方（以下、LP1）の話を聞き、計画的な米の生産や輸送・販売等、米作りを支える人々の働きを理解する。 ※LP1の話を聞くことで、米作りを支える人々の働きについて関心をもって学ぶことができていた。意欲的にメモを取ったり、活発に質問をしたりする姿が見られた（図2）。  図2 LP1との出前授業の児童の様子	○J Aさんが職員の方をLPとして授業に招き、米作りを支える人々の働きについて話をしていただいた。 ○事前にLP1に聞きたいことを取りまとめて送付した。また、話を聞いて疑問に思ったことや、もっと知りたいことを質問する時間を設けた。 【児童の振り返り】 ・実際にJ Aで働いている田中さんの話を聞いて、J Aの仕事内容や大変さ、やりがいを知ることができた。 ・米作りは、農家の人だけではなく、いろんな人がかかわっていることが分かった。 ・J Aの他にも、どんな人たちが米作りに関わっているのか調べたい。
高める	8	○3種類の資料「米の値段の推移」「米が不足している陳列棚」「米の生産量の推移」から、米の生産量の減少が、米の供給を不安定にしていること、及び値段の高騰につながっているという問題に気付く。 ※米不足について、実際に見聞きしたことと関連付けて問題を把握することができていた。 ○4種類の資料「米農家数の推移」「猛暑、少雨による米の不作の事例」「米の消費量の減少」「米の生産コスト」から、米の生産量が減少している背景に気付く。 ○パフォーマンス課題をつかむ。 【パフォーマンス課題】 米の安定供給の実現のために、生産量を増加させるプランを考え社会に発信しよう。 ※米作りの課題と背景のつながりを捉え、解決策を考えようとする意欲を高めることができていた（図3）。  図3 本時の板書	○実社会の問題に出合わせるために、「米の値段の推移」「米が不足している陳列棚」「米の生産量の推移」を提示した。また、「生産量の低下が米不足につながり、値段の高騰を引き起こしている」という事象の関連を児童とともに確認することで、解決すべき主問題は生産量の低下ということに気付くことができるようにした。 ・米の生産量が約60年で半分以下になっている。生産量が減るから、米が足りなくなっていて、値段が上がっているんだ。 ・でも、この1年間で大きく値段が上がっているのはなぜ？ ・そもそも、なぜ生産量が減っているの？ 【児童の振り返り】 ・米の生産量が減っている原因が分かったので、それを解決して米の生産量を増やすプランを早く考えたい。

○「調べる」過程でまとめた、社会的事象を追究するための視点（【自然条件】【品質】【効率】【連携】【輸送】）を本単元のキーワードとして整理する（図4）。

○「追究の視点」を設定する（表1）。

○これまでの学習を振り返り、米作りについて調べ、まとめてきたことをキーワードとして整理した。

- ・庄内平野で米作りがさかんな理由は地形と気候の特色だったから、キーワードは「自然条件」がいいと思う。
- ・機械化と圃場整備は、「効率」というキーワードでまとめられる。

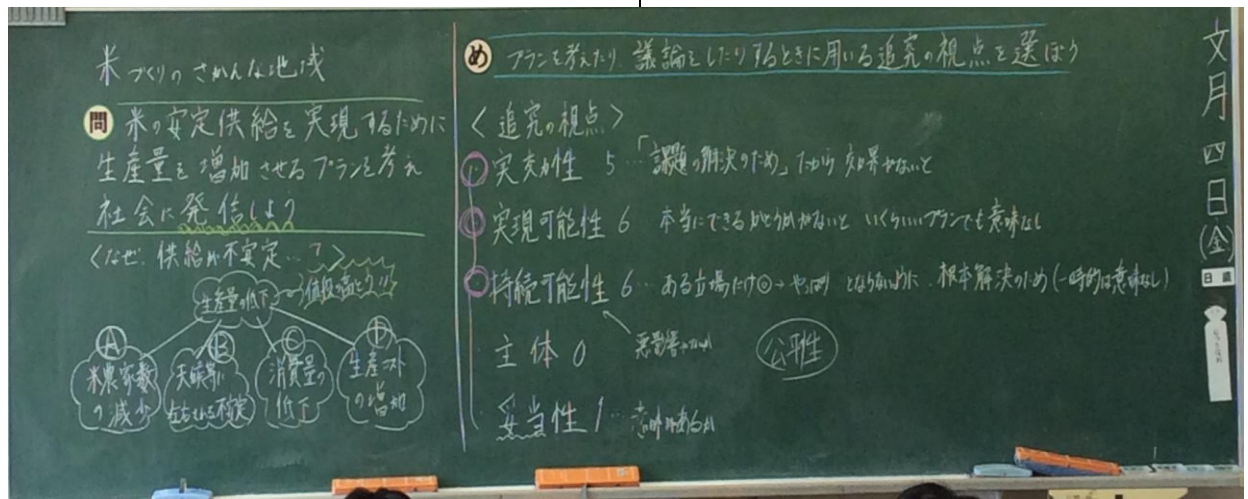


図4 本時の板書 3つの「追究の視点」を設定

9

T：これまでの学習のキーワードと、5つの「追究の視点」を基に今回の議論で用いる「追究の視点」を決めましょう。「追究の視点」はいくつにしますか？

S1：「水産業のさかんな地域」では「実効性」と「実現可能性」の2つだったけど、少ないと思った。2つだと、他の班のプランへの意見や評価がしにくかったから、もう1つ増やしたい。

T：では、今回は3つの「追究の視点」を決めましょう。
…（中略）…

T：「水産業のさかんな地域」では、「実効性」と「実現可能性」の2つの「追究の視点」を設定したね。今回は、どの「追究の視点」を設定しますか？

S2：LPの方に提案をするなら、やっぱり効果があるかどうかは大切だと思う。

S3：効果がなかったら、やっても意味がないから僕もそう思う。

T：では、1つ目の視点は、本当に効果があるのか「実効性」でいいですか。
…（中略）…

T：1つ目の視点は、【実効性】に決まりました。残り2つの視点はどうしますか？

S4：いくら効果があっても、実現できないプランだと提案できないと思う。

S5：効果と実現できるかどうかのバランスが大事だと思うので、「実現可能性」は必要です。

S6：水産業での議論でも、実現できるかどうかの話が盛り上がったから、今回も必要だと思う。

T：では、2つ目の視点は、実現できるのか「実現可能性」でいいですか。
…（中略）…

T：2つ目の視点は、【実現可能性】に決まりました。残りの視点はどうしますか？

S7：米作りは色々な人が「連携」して行っているから、誰がするのかという「主体」はどうか？

S8：確かに。誰かだけがする取組じゃ、長続きしなさそう。

S9：それなら、「持続可能性」は？今ニュースでよく聞く備蓄米は持続可能性が低そう。

T：では、グループでどの視点がいいか話し合ってください。
…（中略）…

S10：米作りは、これからも日本の食生活を支える大切なものだから、長続きするかどうかという「持続可能性」がいいと思います。

S：（賛成する声が多数上がる）

T：では、今回の「追究の視点」は【実効性】【実現可能性】【持続可能性】の3つにしましょう。

表1 「追究の視点」を設定していく児童の発言（教師：T、児童S）

○具体的な取組を考える。

※グループごとに話し合い、「追究の視点」を基に意欲的にプランを考えていた。

○説得力のあるプランになるよう、根拠となる資料を採すよう声掛けをした。

10	○それぞれのプランを提案する。 ※根拠となる資料を示しながら、それぞれのプランを提案した（図4）。	○次時の議論において十分な時間を確保することができるよう、本時でプランを提案し、質問や意見、改善案を考えるよう促した。
	【A:給付金を設け、米農家数を増やす】 米の生産量低下の背景には、米農家数の減少が挙げられます。農林水産省による統計では、米の生産量が多かった1960年代の約466万戸に比べて、2020年では7割近く減少し、約70万戸となっています。それにともなう、米の生産量も5割近く減少しています。 それを解決し、米の生産量を増加させるためのプランとして、「給付金を設けること」が有効だと考えます。 総務省「農業労働力の確保に関する行政評価」によると、米農家の人が仕事を辞める理由は、「農業の理想と現実のギャップ及び給与への不満」が一番多く、また、農家によっては、1年間で約41万円の赤字になっています。なので、1か月に約35000円を給付金として農家に給付すれば、赤字が解消され、米農家になりたい人が増えると考えられます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。	【B:品種改良を進め、生産の不安定さを解消】 米の生産量低下の背景には、天候等に左右される生産の不安定さが挙げられます。農林水産省による「令和5年産の水稻作柄」では、2023年の猛暑と少雨により、米の収穫量が減少し、新潟県だけで約2割近く生産量が減少したというデータがあります。 それを解決し、米の生産量を増加させるためのプランとして、「品種改良の推進」が有効だと考えます。 品種改良による収穫量増加のため、単位面積あたりの収穫量が多い品種を開発、普及することが大切です。品種改良では、日光や風に強い品種を開発します。また、田植えから収穫までの期間が短い品種も開発します。このように、高温や少雨等の天候に左右されない米を品種改良で開発することで、安定して米作りができると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。
	【C:米の販売促進を行い、消費量を増やす】 米の生産量低下の背景には、1人当たりの米の消費量の減少が挙げられます。「農林水産省食料需給表」では、1960年から2020年の60年間にかけ、1年間の1人当たりの米の消費量は、約120kgから約50kgに大幅に減少しており、生産量の低下につながっています。 それを解決し、米の生産量を増加させるためのプランとして、「米の販売促進」が有効だと考えます。 1つ目の具体的取組は、スタンプラリーです。全国にお米の日をつくり、スタンプラリーのようなルールで食べ比べを行います。2つ目の具体的取組は、お米割引券の発行です。1か月に25kg以上の米を買ったら30%offの割引券をプレゼントします。3つ目の具体的取組は、米農家体験です。1年間を通して米を作る体験会を開き、米作りの大変さやありがたさを知ってもらいます。この3つの取組によって、米を買いたい人が増え、消費量が増えると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。	【D:スマート農業を推進し、生産コストを低下】 米の生産量低下の背景には、生産コストの増加が挙げられます。実際に、2020年に出された「農業経営統計調査」では、10aの水田にかかる1年間の生産コストは約12万円であり、このコストによって米の生産量が減っていると言えます。 それを解決し、米の生産量を増加させるためのプランとして、「スマート農業の推進」が有効だと考えます。 令和4年度に出された「農産物生産統計」では、田んぼの面積が0.5ha未満の農家は、お米を1俵作るのに、約27000円の生産コストがかかっています。これだけで、約15000円の赤字になります。生産コストの中で一番多いのは、人件費です。だから、人件費を減らすために、農業用ドローンやロボットトラクター等を活用するスマート農業を推進すれば、人件費にかかっていた生産コストを減らすことができると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。
	○それぞれのプランについて、「追究の視点」を基に質問や意見、改善案について考える。 ※ルーブリックを活用して、互いのプランの良さや課題を整理していた。 ※次時の議論への意欲を高めていた。	【児童の振り返り】 - それぞれのグループのプランを聞いたので、もっといいプランになるよう議論をしたい。 - 次の議論で、他のグループから意見をもらって、自分たちのプランに付け加えた方がいいことや改善した方がいいことを考えたい。

図4 それぞれのグループのプラン内容

○本時の指導（11／12）

(1) 指導目標

米の生産量を増加させるための取組について「追究の視点」を基に議論することで、これからの日本の米作りの在り方を多角的に考えることができるようにする。

(2) 評価規準

イ これからの米作りの在り方について「追究の視点」を基に議論することで、互いの方策の改善案を考えている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（□）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 本時の学習の見通しをもつ。（5分） ・自分たちの考えをよりよくしたいな。 ・他のグループの改善案も考えたいな。	1 <u>学習してきたことを踏まえた議論になるように、これまでの学習の流れや活用した資料を掲示しておく。</u> （A B）
米の生産量を増加させるための取組について話し合い、それぞれの考えをよりよいものにしよう。	
2 米の生産量を増加させるための取組について議論し、これからの米作りの在り方について多角的に考える。（25分） (1) 各グループの提案内容を確認する。 【A：給付金を設け、米農家数を増やす】 米の生産量を増加させるためのプランとして、「給付金を設けること」が有効だと考えます。 総務省「農業労働力の確保に関する行政評価」によると、米農家の人が仕事を辞める理由は、「農業の理想と現実のギャップ及び給与への不満」が一番多く、また、農家によっては、1年間で約41万円の赤字になっています。なので、1か月に約35000円を給付金として農家に給付すれば、赤字が解消され、米農家になりたい人が増えると考えられます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。 【B：品種改良を進め、生産の不安定さを解消】 米の生産量を増加させるためのプランとして、「品種改良の推進」が有効だと考えます。 品種改良による収穫量増加のため、単位面積あたりの収穫量が多い品種を開発、普及することが大切です。品種改良では、日光や風に強い品種を開発します。また、田植えから収穫までの期間が短い品種も開発します。このように、高温や少雨等の天候に左右されない米を品種改良で開発することで、安定して米作りができると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。 【C：米の販売促進を行い、消費量を増やす】 米の生産量を増加させるためのプランとして、「米の販売促進」が有効だと考えます。 1つ目の具体的取組は、スタンプラリーです。全国的にお米の日をつくり、スタンプラリーのようなルールで食べ比べを行います。2つ目の具体的取組は、お米割引券の発行です。1か月に25kg以上の米を買ったら30%offの割引券をプレゼントします。3つ目の具体的取組は、米農家体験です。1年間を通して米を作る体験会を開き、米作りの大変さやありがたさを知ってもらいます。この3つの取組によって、米を買い手が増え、消費量が増えると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。 【D：スマート農業を推進し、生産コストを低下させる】 米の生産量を増加させるためのプランとして、「スマート農業の推進」が有効だと考えます。 令和4年度に出された「農産物生産統計」では、田んぼの面積が0.5ha未満の農家は、お米を1俵作るのに、約27000円の生産コストがかかっています。これだけで、約15000円の赤字になります。生産コストの中で一番多いのは、人件費です。だから、人件費を減らすために、農業用ドローンやロボットトラクター等を活用するスマート農業を推進すれば、人件費にかかっていた生産コストを減らすことができると考えます。 このことから、結果的に米の生産量を増加させることができると考えます。	2-(1) 互いの提案内容が理解できるようにするため、各グループが準備した資料を配布する。 2-(2) <u>それぞれの意見を評価しやすくするために、「追究の視点」である【実効性】【実現可能性】【持続可能性】に合わせたルーブリックを活用するように促す。</u>（A C） 2-(3) <u>議論の内容を整理するために、必要に応じて児童の発言に対し補足や問い返しをする。</u>（B C） 2-(4) <u>考えの理由と根拠に着目し、「追究の視点」を基に、質問や意見を述べるように促す。</u>（C） 2-(5) <u>それぞれの意見を可視化するために、ポイントとなる児童の発言を板書したり矢印でつないだりする。</u> （A D） ◆ これからの米作りの在り方について「追究の視点」を基に議論することを通して、互いの方策の問題点に気づき、改善案について考えているか。 （ノート、発言）【思・判・表】 B 理由と根拠に着目し、「追究の視点」を基に自分や相手の考えの改善案を考えている。 C→ 他のグループの案について、疑問に思うことはないか問う。また、その理由を問い、改善案を友達と考えるよう促す。
(2) 各グループの提案について、議論を行う。 (3) 各グループの提案を評価する。	2-(6) <u>それぞれの提案のよい点や改善すべき点を明確にするために、評価を点数化する。</u>
3 L P 2から評価をもらう。（5分）	3 <u>費用や設備の面で実現可能なのか、米の生産量を増加させる効果があるのか等、「追究の視点」を踏まえた評価をしてもらう。</u>（D）
4 議論の中で出た意見や、L P 2からの意見を基に、各グループで改善案を考える。（7分）	4 <u>各グループからの評価やL P 2からの意見を基に見出した改善すべき点を中心に、改善案を考えるよう促す。</u>（D）
5 今後の学習の見通しをもつ。（3分） ・他のグループからもらった意見や、L Pの方のアドバイスを基に自分たちの案を修正し、意見文を書きたい。	5 次時では、今後の米作りの在り方について意見文を書き、新聞社に投書し、自分たちの考えを社会に発信することを伝える。

[illegible]